



平成 21 年 10 月 16 日

各 位

会 社 名：株式会社トプコン  
 代表者名：取締役社長 横倉 隆  
 (コード番号：7732 東証第一部)  
 問合せ先：経理・経営企画グループ統括  
 取締役兼執行役員 小川 隆之  
 (電話 03(3558)2536)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 7 月 30 日に公表いたしました平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を、下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

##### 1. 平成 22 年 3 月期 連結業績予想数値の修正

(1) 第 2 四半期連結累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 7 月 30 日 発表)	50,900	△700	△1,300	△1,200	△12 円 96 銭
今回修正予想 (B)	43,300	△1,800	△2,400	△2,400	△25 円 91 銭
増減額 (B-A)	△7,600	△1,100	△1,100	△1,200	——
増減率 (%)	△14.9%	——	——	——	——
(ご参考) 前年同期実績	65,726	3,019	3,002	1,482	16 円 00 銭

(2) 通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 7 月 30 日 発表)	107,300	1,700	500	200	2 円 16 銭
今回修正予想 (B)	100,000	1,700	500	200	2 円 16 銭
増減額 (B-A)	△7,300	0	0	0	——
増減率 (%)	△6.8%	——	——	——	——
(ご参考) 前年同期実績	112,666	△6,944	△9,326	△9,992	△107 円 89 銭

## 2. 業績予想の修正の理由等

当第2四半期累計期間（6ヶ月）は、世界金融危機を引き金とした低迷が、当初の予想以上に長引き、特に前半の第1四半期会計期間において、この影響を大きく受け、ポジショニング、アイケア、ファインテックの各事業が当初予想よりスローな滑り出しとなりました。しかしながら、後半の第2四半期会計期間（3ヶ月）においては、売上の増加、全社的に取り組んだ経費節減の効果等により営業黒字へ転換となり、第1四半期会計期間に比べ業績は改善傾向となりました。

このような状況のなか、第2四半期連結累計期間の業績は、ポジショニングビジネスは当初予想を上回る利益を見込んでおりますが、アイケアビジネス、ファインテックビジネスは、期後半に向かい改善傾向で進んだものの第1四半期会計期間の落ち込みが影響し、全体として、上記の通り、売上高、利益ともに、当初の予想を下回る見込みであります。

一方通期では、ポジショニングビジネスは、アジア市場での業績が堅調であることに加え、新製品の投入、経費削減が奏功し、引き続き当初予想の業績を上回る回復基調となり、アイケアビジネスでは新製品の投入が第3四半期以降の業績に寄与し、当初予想どおりの利益を達成するものと見込まれます。また、ファインテックビジネスでは半導体先端領域事業の縮小など事業構造改革を進めてまいります。これらを踏まえ、通期の業績といたしましては、売上高は、第2四半期累計期間での落ち込みを吸収しきれないものの、利益では、人員削減等の経費節減の効果等があり、前回予想と同額を見込んでおります。

なお、通期の業績予想値は、為替レートが第3四半期以降、90円/米ドル、130円/ユーロで推移することを前提としております。

また、配当につきましては、通期業績予想通りの利益確保を前提に、当初の予想通り、中間配当を1株当たり2円、期末配当を1株当たり2円、年間で1株当たり4円の配当とさせて頂き、変更はございません。

世界的な事業環境の動向が不透明でありますので、今後の業績推移等を注視し、業績予想を見直しの必要が生じた場合には速やかに開示致します。

※本資料における業績予想は、本資料の発表日現在における将来の事業環境の動向、競合状況、為替変動等に関する予想を前提としており、実際の業績は、今後、様々な要因により、業績予想と異なる場合があります。